

” 続・読書三昧の日々” 2014. 11. 22 (sun)

長く風邪をこじらせ、相変わらずの読書三昧。暫く梅原猛日本史学に漬かっておりました。オオクニヌシノミコト、大和武尊・・・古事記、最澄、空海・・・真言宗、天台宗。う～ん、面白い！そして、池谷裕二、ほぼ日のえーと、誰だっけ、コピーライターの???の「海馬」。と思いきや、今度は武田百合子の「富士日記」。でも、すぐ飽きて、養老孟司先生の「壁」シリーズ。これは、痛快！そして、ただ今「十二番目の天使」です。読書は、思考。

” 読書三昧の日々” 2014. 10. 23 (sun)

このところいくつかの企画書を書き上げ、それがために風邪もこじらせたこともあり、暫し、読書三昧。「アリババ思想」に、「人類哲学序説」、「子どもが忌避される時代」、「千代に八千代に」・・・。布団をかぶり、ティッシュ箱を抱え込み、夜中も読みふけったり、いつの間にか眠ってしまい、・・・。飛び起きて、仕事に向かったり。そんな中、「千代に八千代に」は面白かった！（でも、これ漫画です。）

” Yくん、夏休みの頑張りで国語、満点を取る” 2014. 9. 15

このY君。夏休み当初は、1日3時間時間、計12日の予定が3日延長！読解克服の為に、まずは文の理解に主語・述語。次に、段落毎にキーセンテンスを見つけ、作者の論理を掴む。そのうえで、文をゆっくり、じっくり読んで、正解するまで考える。それはもう大変な作業でした。しかし、結果は表題通り、国威語ではなかなか取れなかった満点を取りました。中学生でもT君が、1日9時間、計25日の過酷なスケジュールをこなし、学年トップを奪還。子ども達の頑張りは捨てたもんじゃあないと感じた次第です。

” 放課後スクール「学びの広場」、8月野外体験活動が行われる。” 2014. 8. 31 (sun)

昨日8月30日、放課後スクール「学びの広場」の月1回の野外体験活動を行い、午前中は野外料理体験（はんごうご飯とカレー作り）、午後は瀬戸川でカヤック体験を行いました。朝方は雨が降ったものの、活動が始まると、雨も上がり、それほど暑くもなく、絶好の天気でした。参加者6名、小学生2名、中学生4名、ホント楽しくやっていました。これも私を除いたスタッフの準備のお陰です。スタッフのみんな、ありがとう！

一部に、挨拶もしない、作ってくれる、準備してくれるのを待つ、そのくせ、一人前に言いたいことを言い、食べること、やりたいことは人を押しつけてもやる今の子ども達。同世代間のコミュニケーション不足と体験不足が言われる中、放課後スクール「学びの広場」のこうした野外体験活動では、作ることや準備から片づけまですべてを子ども達で協力しながらやらせます。

昨日も何人か子ども達には厳しいことも言わせてもらいました。人間としてホント基本的なことですが、感謝の気持ちを持ってない、素直に感謝の気持ちを現せない子どもがいる

んですね。

” なべちゃん、ご逝去される。” 2014. 7. 24(thu)

静岡県ホームページに掲載されております「ふじのくに かんきょう学校」を共に（正確には、なべちゃんの指導の下）制作しました、渡邊雅俊氏が、22 日ご逝去され、本日愛知県愛西市で行われた葬儀に参列させて頂きました。享年 39 歳、若すぎのご逝去でした。IT 技術不案内ながら、自由奔放な私の提案（「ふじのくに かんきょう学校」制作）を素直に受け入れてくれ、それをものにしてくれたなべちゃんを亡くし、本当に悲しいばかりです。言葉が出ません。改めて、ご冥福をお祈り致します、合掌。

” NPO 日本インターネットスクール協会（JISO）総会終了” 2014. 5. 18(sun)

本日平成 26 年 5 月 18 日東京・秋葉原にて、特定非営利活動法人日本インターネットスクール協会平成 26 年度通常総会及び理事会が終了しました。3 名の理事欠員に対し、2 名の理事就任が承認され、且つ、新年度は会員皆さんが参加し、経済的にも発展する事業を模索する総会となりました。席上、オブザーバーとして参加頂いた 1 名の方の入会が決まり、又、もう一人ご参加頂いたオブザーバーの方、即ち 1 年半ぶりにお会いした西川さんからは、海外にも目を向けた数個の事業のヒントを頂き、大変有意義な会となりました。ありがとうございました。口ではグローバル時代と言いながら、自分の思考がグローバルになっていない現実を知りました。技術革新による大量生産・大量消費の時代の次は、再び手作り少量生産、本物志向、無添加、無着色、無農薬・・・に戻るのか、「猿の惑星」の最後の場面を思い出します。否、世が言う、「本物志向」の時代なんですね。お陰様で「ヒゲグマ先生のベーコン」が売れる理由を実感しました。YG さん、これから毎週燻製品作りだよ！

” 駅北商店街ニーズ調査結果に思う。” 2014. 5. 11(sun)

榎まちづくり藤枝が、昨年平成 25 年 8 月 5 日（月）～8 月 26 日（月）の 21 日間、藤枝駅周辺の商店街のお客様や藤枝市文化センター利用者の皆さん、藤枝駅周辺在住の住民の皆様、800 名を無作為に選んでアンケート調査を行った結果を読んでいます。藤枝駅周辺も世の流れに沿い 60 歳以上が約 41% と高齢化が進んでおります反面、集合住宅では 40 歳以下が約 60%、核家族がまちなかでは約 55%、集合住宅では 76% にも達しています。

即ち、調査結果にも記されております通り、子育て世代や高齢者の生活支援ニーズが顕在化しており、私達が藤枝駅北交流広場「交流サロン」と「生活の広場」を、更には、放課後スクール「学びの広場」を開設したのは間違えではなかったと思います。

勿論、新たな事業故に、藤枝駅北交流広場や学びの広場の認知度が上がるには時間がかかるもの。加えて、調査結果を更に読んでいくと、高齢者のたまり場、子育て世代の交流

の場、学習の場のニーズもはっきりと出ており、益々明るい未来が見えてくるのに、職員の努力がなかなか目に見えてこない歯がゆさを感じます。いやいや、頑張ろう！地域住民が集う、心豊かなコミュニティの場を、そして、真正面から取り組み、生き生き学び、活動する、本物の智慧を持った子ども達を育てるために。

” 齋藤武・消防設備保全㈱会長がご逝去されました。” 2014. 5. 5 (mon)

30代後半の若輩者の私を、以後20数年に渡って厳しくもかわいがって頂いた齋藤武・消防設備保全株式会社社長が、先日4月27日ご逝去されました。氏は中央防犯サッカー部～藤枝ブルックス～福岡ブルックス～アビスパ福岡と、そのチームのみならず大変熱心に藤枝のサッカー再興に尽力された方の一人でした。確かに厳しい性格でしたが、こんな若輩者の私に殊の外気をかけて頂きました。また、サッカーのみならず、私共の2つのNPO活動にはご理解を頂き、それこそ沖縄県座間味諸島や豪州・ペンリス市、長野県八ヶ岳などでの子ども達の交流合宿にもご参加頂き、資金的なご支援以外にも、進んでカメラマンを引き受けて下さり、大変お世話になりました。一昨日5月3,4日仕事で福岡に行きました折、藤枝ブルックス＝アビスパ福岡の福岡移転当初からのサポーターの皆さんにもお伝えしましたが、声も出ないほど残念がっておりました。これからは天国から私達を見守って下さることを胸に、様々な活動に精進していく所存です。改めて、ご冥福をお祈り致します、合掌。

” 放課後スクール「学びの広場」の体験教室参加者募集チラシが新聞折り込みされる”

2014. 4. 26 (sat)

本日の静岡新聞朝刊を基本に、放課後スクール「学びの広場」の授業体験、ロボット教室体験、野外活動体験の参加者募集チラシを新聞折り込みさせて頂きました。昨年11月に静岡県重点雇創出プラン民間アイデア募集による委託事業に採択され、地域を活性化する民間の放課後クラブのモデル事業として事業化に向けて準備をしてきました放課後スクール「学びの広場」の実際を、体感・体得して頂こうという企画です。これまで38年間に渡る様々な青少年の健全育成事業の経験と実績を活かして造り上げました放課後スクール「学びの広場」に、一人でも多くの子ども達の参加を、職員一同心よりお待ちしております。

” 久しぶりのカヌー体験” 2014. 4. 20 (sun)

昨日19日、放課後スクール「学びの広場」の野外体験活動で、浜松市北区の旧二俣町にある「相津マリーナ」に、ホント久しぶりにカヌーをやってきました。3名の職員と共に、同じく3名の子ども達と約1時間ほどでしたが、カヌー（正確に言いますと、カヤックですが）を楽しんできました。やっぱり気持ちがいいですねえ。そんな折、今朝（20日）の静岡新聞朝刊を読んできましたら、「包丁や箸、定規を使えない 子どもの生活技術低下」と

題する記事が。びっくりしましたね、「定規を使って真っすぐに線が引けない」子どもがいるんですね。昨日のカヌーを体験した子ども達は勿論、一人の中学生は学校の行事で焼津港でカヌーを経験したことがあるものの、みんなカヤックは初めての経験。それでも偶然居合わせたカヤック歴 20 数年のベテランのカヤックの指導者から、「初めてなの？上手だねえ。」とお褒めを頂いたんです。カヤックの基本＝バランスを身につけ、そう言われると、普段妹に負けっぱなしのお兄ちゃんもウキウキ、すっかり自信を取り戻し、いい経験でした。頭でっかちですっかり生活技術を失った今の子ども達。放課後スクール「学びの広場」は、月1度（第3土曜日）の野外体験活動で様々な「生活力」を身につけ、「生きる力」を持った子ども達を育てたいんです。来月5月は、「燻製作りと手打ちそば作り」体験。昨日のような子ども達のウキウキ、輝いた目が楽しみです。・・・さてと、話は変わって、これから4年間の藤枝市政を担う市会議員を選びに行くとするか。

” 20余年ぶりの再会” 2014. 3. 30(sun)

20余年と言うよりは、もう30年振りと言った方が正しいかもしれませんね。いとこ達に会ってきました！JR島田駅の真ん前で、姉弟で1階と2階の両方のお店をやっていました。懐かしかったですねえ。

私にとってその昔、全国バーテンダー大会で優勝した！自慢のいとこだったんです。そんな話を今月の22日に、ふとした時に島田市在住の職員に話したら、「えっ！先生、その店、知ってるよ！」っていう話になり、2日前の28日、下記の赤い羽根の募金助成車両の件でその職員と打ち合わせがあり、その店に行きました。

最初は2階のお姉ちゃんの経営するお店（大満月茶屋「ビッグムーンカフェ」）に行き、食事をしました。お店に入ると、お姉ちゃんは私を見るなり、「えっ！」と驚き、「やっちゃんだよね？」と。そうなんです、当時そう呼ばれてたんですよ。姉達からは「やっちゃん」と呼ばれてるんですが。叔母の葬儀の話になり、お姉ちゃんのお店で一緒に働いているいとこ（弟）のお嫁さんともお話しました。お袋の妹弟の中で一番社交性のあった叔母の子、お姉ちゃんはその血を引いてましたね。「この後、下の店に行くからTちゃん（いとこの名前）には黙ってて。」とお願いし、お姉ちゃんの料理を堪能しました。ホントおいしかったです！なんてたって、島田駅の夜景を見ながら、座ってお酒と料理を楽しめるお店の雰囲気最高でした！

で、職員と一緒にその後の下の弟のカクテルバー「ブルーズバー」に。店に入ると、カウンターにお客が2人。私と同じ頭格好（スキンヘッド）と体格のマスター。（えっ！いとも俺と頭、いっしょか？）「いらっしやいませ。」と、マスターがおしぼりと金属製のコースターを差し出してくれた。すぐさま知人にシッ！と合図をし、「まずは最初の飲み物は私に任せて。」と知人にお願いし、「マスター、ソルティドック2つ！」と注文。「はい。」とマスター。小声で「えっ！いつ、マスターに先生のこと、話すの？」と職員。「2杯目の時。」・・・そして、程なくしてそのソルティドックを飲み干し、いよいよ2杯目の注

文。「Tちゃん、次は酸っぱいもの頼むね。」と言うと、「やっぱ、さっき声でわかったよ。」
といとこ。その言葉が、ホント嬉しかったです。……Tちゃん、甘ナツのカクテルが
一番おいしかったよ。また行くね。

“赤い羽根の募金 送迎車 2 台助成される” 2014. 3. 26 (wed)

本日、平成 25 年度赤い羽根共同募金助成金交付説明会が静岡県社会福祉総合会館で行われ、出席してきました。お陰様でこれまでのNPO活動を評価して頂き、今年度当初に申請致しました虹の架け橋事業や野外活動等に使用致します 8 人乗り送迎車 2 台の助成が決定致しました。関係各位の皆様には大変感謝しております。本当にありがとうございます。しかしながら、申請時は消費税 5%であったのが、購入時には 8%に変わったものの、助成金額は消費税 5 の金額のまま。また、自己負担率がこれまで 2 割であったものが、2 倍の 4 割 (=約 345 万円の自己負担) となり、もともと保有資金のないNPO故、正直なところ苦慮しております。勿論、共同募金に寄付して頂きました多くの方々には、勿論大変感謝しております。しかし、これまでカヌー 3 艇、10 人乗りワゴン車 2 台を助成して頂いた分の 2 割の自己負担分は私が個人的に負担してきました上での自己負担率 2 倍は、厳しい現実と受け止めざるを得ません。

” 閑話休題” 2014. 3. 9 (sun)

「学びの広場の目指すもの その 7」まで書き上げたら、ちょっと一休みしてました。失礼致しました。と言うよりは、実は急ぎの今年度の報告書きがあり、そちらで振り回されておりました。例年通り、年度末のこの時期は、こんなんですね。しかし、今年は特に忙しさを感じます。今までは、事業終了が年度末でその報告書は殆ど 4 月末日までが殆どでした。しかし、今年度はどこも口を揃えたように年度末までの提出を求められており、休日返上で (いつものことですが) 本部に籠りっぱなしで作業してました。勿論、夕方から自身にガソリン (?) を注入しながらですが、パソコンとみらめっこしてました。7 日の金曜日には、「その 5」で書かれた「十字軍遠征から市民革命」の社会の授業を収録しました。「学びの広場」での公開が楽しみです。

” 学びの広場の目指すもの その 7” 2014. 3. 6 (thu)

最後は英語ですね。小学校に英語が導入されましたので、その「基礎・基本原理」とは、小学生と中学生では、というよりは、国際化に向けての英語と所謂受験英語とは、その「基礎・基本」(言語だけに「原理」を外します) が少し違うように私達は考えますが、本音では私達は国際化に向けての英語の習得を望んでおりますので、その「基礎・基本」の話をさせていただきます。文部科学省・国際移住機関の委託事業「虹の架け橋教室」を受託している私達は、タガログ語かビザヤ語が母語のフィリンの子ども達が流暢に英語を話すのを見聞きしていると、英語の「基礎・基本」は、日本語と英語のバイリンガルになるための「基

礎・基本」で、「聞き取れ、話せる英語力」の「基礎・基本」、即ち、語彙と発音に構文力だと考えます。それは外国人が日本語を学ぶ時、日本語文法からではなく場面のフレーズで学ぶ基本と同じだと捉えます。日本語を母語としない子ども達が日本語を学ぶ時のように、すべて英語で聞き、英語で話す時に要求される「語彙と発音と構文力」が、これから国際社会に生きる子ども達の英語の「基礎・基本」と思います。いかがでしょうか？

” 学びの広場の目指すもの その6 ” 2014. 3. 5(wed)

そして次は、理科の「基礎・基本原理」の理解とは何かです。理科も社会と同様に「暗記科目」の側面もありますが、例えばどうして水酸化ナトリウム (NaOH) と塩化アンモニウム (NH_4Cl) に水を少量加えるとアンモニア (NH_3) が発生するか、そもそもどうしてナトリウム原子 1 個と酸素原子 1 個と水素原子 1 個が結びついて水酸化ナトリウムができるか、その「基礎・基本原理」を中学生レベル (化学式を学ぶのは中学 2 年生ですから) 即ち、各原子モデルの持つ手の数を活用して論理的に化学反応を説明できることが理科の「基礎・基本原理」の理解だと、学びの広場では捉えています。それについても勿論、学びの広場のホームページの公開授業で示します。同様に、電流・電圧・抵抗の様々な法則を、頭から暗記するのではなく、水の流れ (電流) と滝の落差 (電圧)、流れを阻む杭の数 (抵抗) を活用して導き出すことが、理科の「基礎・基本原理」の理解だと私たちは捉えています。

” 学びの広場の目指すもの その5 ” 2014. 3. 4(tue)

次は、社会の「基礎・基本原理」とは何かです。社会は一般に単に「暗記科目」とみられがちですが、学びの広場では勿論、そんな側面を否定は致しません。しかし、それより増して社会は、より「調べ科目・分析科目」と捉えております。即ち、地理では、例えばみかんの産地の地理的背景の理解、歴史では様々な「事件」の原因・経過・結果の把握、公民では制度・法律の歴史的、実務的把握であり、経済・社会分野ではそのシステムができた背景の理解だと私達は捉えております。分かりやすく言えば、どうして愛媛県、和歌山県と静岡県は、みかんの産地なのか？ どうして十字軍の遠征が絶対王政・ルネサンスを産み、大航海時代→市民革命と繋がったのか？ その歴史的背景を調べ、理解すること、更には、生存権が立法化された歴史的・社会的背景の理解だと考えます。そのそれぞれの解答は、学びの広場のホームページの公開授業で示すつもりでおります。即ち、物事には必ず原因があり、経過を経て結果が生じます。それを把握、理解することが社会科の基礎・基本原理だと捉え、それ故に私達は、社会はより「調べ科目・分析科目」と考えております。

” 学びの広場の目指すもの その4 ” 2014. 3. 3(mon)

読解力育成の例を示しましょう。その基礎は、昨日述べた「主語・述語の把握」です。

この授業は、学びの広場のホームページの映像で公開予定です。

問い 次の文の主語・述語の関係を示し、わかりやすい文に直しなさい。

私は小林が中村が鈴木が死んだ現場にいたと証言したのかと思った。」

主語・述語の把握、即ち「死んだ」の主語は「鈴木が」で、「現場にいた」の主語は「中村が」で、「証言した」の主語は「小林が」で、「思った」の主語は「私は」ですから、「主語・述語は近くに置く」の原則に照らして、

鈴木が死んだ現場に中村がいたと小林が証言したのかと私は思った。

と、書き直すのが正しい文であり、わかりやすい文です。(問題は、本多勝一著「日本語の作文技術」より引用)

” 学びの広場の目指すもの その3 ” 2014. 3. 2 (sun)

さて、次は読解力とは何かです。昨年「今でしょ！」で大ブレイクした東進衛星予備校の国語講師・林修先生の指導法もそうですが、同じく東進衛星予備校の国語講師・出口汪先生が体系化した国語の読解法「論理エンジン」がその問いに明確に答えております。放課後スクール「学びの広場」のホームページで、学びの広場での国語の授業の一部を公開しておりますが、読解力はまず文の読解、即ち主語・述語の把握です。主語と述語があつて節、即ち文が成り立ちます。その文の読み取りがその読解力の基本だと考えます。そして、次は一つの段落の中での著者が最も言いたい文、即ちキーセンテンスの把握です。特に論説文、説明文では、著者の言いたいことが変われば段落が変わります。ならば、一つの段落にはその段落で著者が述べたい文が一文必ずあるはずで、それがその段落のキーセンテンスです。そのキーセンテンスを把握し、それを繋げたものがその文章の論旨であり、その論旨の把握こそが読解力だと学びの広場では捉えております。従って、その論旨に従って設問に答えれば、必ずや答えが導かれます。放課後スクール「学びの広場」のホームページで公開されています国語の授業は、中学生の無学年制で行ったほんの一部分ですが、是非ご覧下さい。皆様のご意見をお待ちしております。

” 学びの広場の目指すもの その2 ” 2014. 3. 1 (sat)

では、その「基礎・基本の原理」についてお話させていただきます。これは私が機会ある度にお話しさせて頂いておりますが、皆さんは「わり算」をどう捉えていますか？38年間学習塾で教えてきて、殆どみんな、所謂「均等割り」と答えます。平たく言えば、「分ける計算」と答えます。即ち、例えば、12個のリンゴを4人で分けるといくつ？と聞くと、 $12 \div 4$ で一人3個と答えます。わり算＝分け算だから、12個分ける4人だから3個と減るんですね。そうすると、分数のわり算の時に混乱するんです。なぜって、答えが増えるから、子どもたちは”心の中で”混乱してるんです。表面では殆ど「そうなんだ」って顔してますが。実は、そうじゃあないんです。

小学校算数の教科書に「一あたりの量を求める」といい文言があります(と言いながら、

昔はあったんですが、今はどうでしょう？)。それが、わり算の意味です。即ち、わる数の一あたりの量を求めるのが、わり算です。だから、前段の問題は一人あたりの数を求めるから、 $12 \text{ 個} \div 4 \text{ 人}$ で3個/人 (/は分数記号です)、即ち一人あたり3個なんです。また、 $1/3 \text{ m}^2$ あたりに2リットルの水をまくと 1 m^2 では？という問題は、 $1/3 \text{ m}^2$ あたり2リットルだから、 1 m^2 ではその3倍の6リットルとなるんです。それで、計算では、 $2 \text{ リットル} \div 1/3 \text{ m}^2 = 2 \text{ リットル} \times 3/1 \text{ m}^2 = 6 \text{ リットル/m}^2$ (1 m^2 あたり6リットル)となり、分数のわり算は逆数をかけることになります。これが、学びの広場の目指す算数・数学の「基礎・基本原理の理解」です。

” 学びの広場の目指すもの その1” 2014. 2. 28(fri)

20歳の時起業し、中3年余り建築業界に身を置きながら、以来38年もの長きに渡って学習指導に従事してきた私は、所謂ゆとり教育が始った頃から基礎学力と読解力の低下を危惧し始めました。と言いますのは、学校ではゆとり教育が始まり、基礎学力を補完する「漢ド」「計ド」なる宿題も出されなくなり、運動や学習での「競争」を避け始めたためにその「目標」が薄れてきました。一方、学習塾でも入塾テストで選別し、学校で1週間かけて行う授業を僅か1時間で教えて定期試験で結果を出させるため、基礎・基本原理の理解に基づき、その子の学力を伸ばすコーチングではなく、学校の授業を先取りした解き方のティーチングに奔りがちになる中、TVゲームやインターネットの普及で文字離れが始まり、学力の2極分化が顕著になってきました。結果、子ども達が自ら考え、理解し、自ら解決し、表現していく力が育たず、遂に全国学力調査小学6年生国語Aで全国最下位の成績を収めてしまったのです。その危惧感から平成9年頃、3年間に渡って岡本光司・静岡大学教育学部教授(当時、数学教育学専攻)にお願いし、保護者や学習塾講師を対象に「算数指導法講座」を開いたこともありました。私もその講座を通じて岡本先生からその「基礎・基本原理の理解」について大いに学ばせて頂きました。

当スクールで使用している四谷大塚の予習シリーズや、東進が行う全国統一小学生・中学生テスト、あるいは、ジュニア数学オリンピックの問題は、単なる暗記力、知識力だけでは答えられません。あくまで基礎・基本原理の正しい理解に基づく読解力、創造力、応用力、問題処理能力であり、それが「学びの広場」が目指す学力観です。

” 大変ご無沙汰致しました！” 2014. 2. 27(thu)

ホントにお久しぶりです。忙しい、忙しいという人ほど気持ちだけ焦っているだけで、ホントは忙しくはないらしいですね。そうかもしれません。ようやくこの日記を書く気分になり、思いのままにたためています。

本ホームページをご覧頂いております通り、38年の長きに渡って学習塾を運営してきました集体系として、この4月、放課後スクール「学びの広場」を事業化することになりました。この間大変多くの方々にお世話になり、昨年11月からは静岡県重点分雇用創出プラン民間アイデア募集による委託事業に採択され、地域を活性化する民間の放課後クラ

ブのモデル事業として事業化に向けて多大なご支援を頂いております。ありがとうございます。内容は是非「学びの広場」専用のホームページ（現在は閉鎖 2020.8）を御覧ください。これから暫くこの放課後スクール「学びの広場」が目指すものについて、それこそ「つれづれなるままに」書き留めていこうと思います。お付き合いの程、宜しく願い致します。

” 川本町とのスポーツ交流へ” 2013. 3. 2(sat)

昨日から下記の日誌の島根県邑智郡川本町役場の職員 2 名の訪問を受け、先ほど 13 時 42 分の J R に帰られました。高校の体験ツアーや町の活性化事業、農業の自立などの話に湧き、充実した 2 日間でした。お土産も頂き、代わりに「ふじえだ茶菓（サッカ）ボール」をお持ち頂きました。

そんな中、川本町にある県立高校の女子サッカー部を作りたいとの話から、指導者の派遣の話が出まして、ならば、藤枝市とスポーツ交流都市提携を結んで、例えば 3 年間女子サッカー部監督しながら、幼稚園から中学生までの女子サッカーのクラブスクール運営の基礎を創る指導者を藤枝から送るという提案をさせて頂き、今日藤枝市サッカー協会の会長で藤枝市議会議員との話し合いもでき、楽しみな動きになりそうです。

” 島根県邑智郡川本町へ” 2013. 1. 16(wed)

12, 13 日、1 泊 2 日の日程で、J I S O（日本インターネットスクール協会）の N P O 活動で島根県邑智郡川本町～広島・宮島に行ってきました。この歳にして初めて島根県と広島県を訪れました。川本町では、夕方 J I S O の理事のご実家で理事のお義姉さんの手料理を御馳走になり（ありがとうございました！）、その後午後 8 時から日が変わって午前 1 時まで約 5 時間、私の中では私が生まれ育った旧金谷町高熊地区と重ね合わせながら、川本町役場の方々と町の活性化について語り合いました。

人口が 4000 人に満たない町。若者の流出で高齢化が進み、物価が高く、わざわざ約 2 時間かかる広島市にガソリンを入れに行く。人が少ないから物が売れない。だから、物が高い。ならば、町の雇用を創出すれば、若者に限らず、川本町の人々が町を出ないで、地元で働き、その家族も地元の町で生活する。町は県外からの人口流入を図り、都会からの移住作戦を練る。確かにそれも、一つの政策。しかし、J I S O が絡むならば、雇用の創出に、セカンドライフならぬ、N E T を活用した「N E T 島根県邑智郡川本町」を創立し、農業企業の設定、山間（やまあい）留学と、・・・アイデアが湧いてきます。今月 27 日の J I S O 関東地区懇親会に提案させて頂こうと思っています。

” 仕事とは” 2013. 1. 6(sun)

昨今の厳しい雇用状況。大学を出ても就職できない。勿論、デフレ脱却ができない経済状況がその原因ではありますが、昨年暮れの衆議院議員選挙の自由民主党の圧勝は、国民のその期待感かも知れません。しかしながら、生活は高度経済成長後、バブル経済頃をピ

一クに豊かになり、不景気、デフレと言われながら、大学を卒業して就職できなくても親の貯蓄や収入でなんとか生活はできる時代です。

加えて、若者達の職業観というか、進学観も変化し、「こういう仕事をしたいから、〇〇学校や**大学に行きたい」という子ども達は少なく、「自分探し」という言葉に象徴されるように、「とりあえず〇〇学校や**大学に行き、そこで将来を考える」子ども達が殆どのように思います。

我々は、家計の状況から学校や大学を出たら自活しなければならぬから、卒業＝就職＝自活が当然で、アルバイトで生活するという事など考えたこともなかったですね。まあ、私は20歳で起業して、中3年3か月会社員勤めをただけで、以来ずっとこの生活を続けておりますが。

しかし、私は「自分探し」を批判しているわけではありません。むしろ推進しています。ただ、もっと早い時期から、即ち、小学校、幼稚園の頃から始めてほしいと考えています。

これから試みようとしています「藤枝駅北交流広場」事業の中の「子ども1日店長」や「子ども運営スタッフ」構想はそのためです。私自身がそうであったように、小さい頃から本や話からだけではなく、様々な仲間たちと実に様々な体験して、「自分探し」をしてほしいのです。勿論、本を読むこと、人の話を聴くことも大事です。そうしたことを通じて、自分を知り、自分の将来像を描き、これからの日本を引っ張って行ってほしいのです。

” 明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い致します。” 2013. 1. 1 (tue)

また新しい年を迎えました。

元旦早朝の地元の神社の拝賀式で、地元の自治会や町内会の役員の皆様がおっしゃっておいりましたが、昨年は、ロンドンオリンピックで史上最多のメダル獲得に沸けば、条件付消費税の引き上げ法案の可決による民主党の分裂に、尖閣諸島の国有化に対する中国での大抗議デモ、そして、衆議院議員選挙で3年半の民主党政権からの自由民主党の圧勝による政権交代。更には、時期遅れの台風や大雨による九州・近畿地方の大水害に、東南アジアでも大水害の発生。加えて、山田五十鈴・森光子・中村勘三郎・米長邦雄・藤本儀一・小沢昭一各氏・・・と、各界を牽引してきた方々の相次ぐ他界。ホントに社会が大きくに変化した1年でした。

さて、今年はどうなるでしょうか？私にとっては、今年はいよいよここ数年温めてきた私のNPO活動の集大成である「藤枝駅北交流広場」の本格稼働の年としたいと意気込んでおります。初詣でもその成功をしっかりとお願いしてきました。これによって藤枝の玄関である駅北の商店街が人の賑わいを取り戻し、大きく活性化することを願うばかりです。